



釜石市健康づくりの集い 市民公開講座を開催



11月15日、イオンタウン釜石を会場に、平成26年度釜石市健康づくりの集いが開催されました。

この催しは、楽しく学びながら健康づくりに対する関心を深め、元気で明るいまちを作ることを目指して、釜石市健康推進課が例年開催しているものです。会場には釜石医師会、釜石歯科医師会、釜石薬剤師会、釜石保健所などのブースが設けられ、多数の参加者が集まりました。

イベントの一環として、チームかまいしでは、イオンタウン釜石イオンホールを会場に、平成26年度市民公開講座「食べること 生きること ～健康を支える多職種連携～」を開催しました。

この講座では、国立がん研究センター東病院の木下寛也医師を座長に、ふれあい歯科ごとう（東京都新宿区）の五島朋幸代表を講師に迎え、口腔ケアの大切さや誤嚥性肺炎の予防について、また多職種連携で取り組まれている新宿区の食支援などについて学びました。また、チームかまいしアドバイザーの寺田尚弘医師（釜石ファミリークリニック）により、釜石市の在宅医療と多職種連携について、多職種同行訪問などの実例をあげて説明がありました。

食や口腔に関する多職種はもちろん、住民の皆さんの意識に訴えかけるような講座となりました。



「健康づくりの集い」の様子。フッ素塗布のコーナーにはたくさんの子どもたちが集まりました。



80人が講座に参加しました



五島先生の熱のこもった講演

地域包括ケア講演会

12月20日、釜石市地域包括ケア推進本部の主催により、地域包括ケア講演会「ここで暮らし続ける～ひとりひとりが地域の力～」が開催されました。講演は基調講演と事例発表の2部構成で、福祉社会学、障がい者・高齢者政策を専門とする竹端寛山梨学院大学教授が講師を務め、会場の小佐野コミュニティ会館にはおよそ70人が集まりました。

竹端教授は、年を取っても地域で暮らしていくためには「自分が出来ることを見つけ、誰かの役に立つことが必要。地域の中で役割を感じることで誇りを持つことができる」とし、個人の努力やこれまでの行政サービスでは対応しきれない地域課題を「共助」や「互助」で解決する重要性を説明しました。

事例発表では、釜石市主任児童委員の市川淳子さんが見守り活動の中で気になった「地域で抱える課題」について発表し、問題を抱える住民への関わり方について、参加者全員で考える機会を持ちました。



参加者に質問をする竹端教授

出前講座を開催しました

12月18日、源太沢集会所において、今年度4回目の出前講座を開催しました。この講座は釜石市教育委員会が行う「釜石市生涯学習まちづくり出前講座」のプログラムのひとつで、今回は源太沢親交会の主催で開催されたものです。

今回の出前講座では、チームかまいしが通常行っている在宅医療に関する内容のほか、釜石市地域包括支援センターが実施するメニュー「認知症を理解する（認知症サポーター養成講座）」があわせて開かれ、参加者の皆さんの関心が高い「認知症」について、病気の特徴や予防法、対応などを学びました。また認知症患者への対応が楽しく学べる寸劇が行われ、朗らかな笑いのうちに講座が終了しました。

今後も日程の調整が可能な限り出前講座の開催に応じ、在宅医療の普及啓発に努めていきます。



岩手県医療政策室からのお知らせ

「地域における医療及び介護の総合的な確保を推進するための関係法律の整備等に関する法律」の一部が平成26年10月1日より施行されています。詳しくは岩手県ホームページをご覧ください。

<http://www.pref.iwate.jp/iryuu/seido/13715/029268.html>

第10回在宅医療推進フォーラム参加報告

11月23日、愛知県名古屋市の名古屋大学豊田講堂において開催された、第10回在宅医療推進フォーラムに参加しました。

本フォーラムは「新しい地域社会の創造に向けて」をテーマに約1,000人が参加する大会となりました。

午前には全国11ブロックの地区別フォーラム報告会が開かれ、地区ごとのさまざまな取り組みや、顔の見える関係の構築に尽力している様子などを知ることができました。

午後は基調講演、シンポジウム、討論会「市町村とかかりつけ医・在宅医療・介護連携のキーポイントは」等のプログラムが発表され、今後ますます在宅医療の重要性が増してくることがうかがえました。

在宅医療にかかる全国各地の関係者の熱い思いが伝わり、自分たちの活動を顧みるきっかけとなるフォーラムとなりました。



討論会の様子

視察対応報告

10月から11月にかけて、全国各地から自治体や市議会など4団体がチームかまいしを訪問し、活動を視察しました。視察ではチームかまいしの体制や事業内容、在宅医療介護連携に関する説明や、釜石市の現状と震災による被害状況、まちづくりの状況などを説明しました。

滋賀県高島市からは行政職のほか医師やケアマネジャー、リハビリ職など多職種が参加したことから、釜石薬剤師会や釜石リハ士会にご協力いただき、それぞれの職種から見た釜石医療圏の医療介護連携について説明していただきました。また平田サポートセンターや平田第6仮設団地自治会の皆さんにご協力いただき、復興の現場を視察する貴重な機会をいただきました。

今後も他の自治体等と意見交換・情報交換をしながら、在宅医療介護連携の推進に努めていきます。



滋賀県高島市の皆さんと多職種交流会！

岩手県立釜石病院 市民公開講座のお知らせ

岩手県立釜石病院では、医療・介護関係者ほか一般の方を対象に市民公開講座を開催します。事前申し込みは不要ですのでお気軽にご参加ください。※内容は変更となる場合があります。

- ◆ 地域がん診療連携拠点病院の指定を受けて
講師：岩手県立釜石病院 副院長 遠野千尋氏
- ◆ 県立釜石病院の緩和ケアについて
講師：岩手県立釜石病院 緩和ケア認定看護師 西明子氏
- ◆ がんと診断された時の患者・家族の心構え
講師：国立がん研究センター東病院 緩和医療科 木下寛也氏

日時 2月15日(日)
13:00~

会場 岩手県立釜石病院
2階 大会議室

【問い合わせ】岩手県立釜石病院 医事経営課 担当：阿部 (Tel.0193-25-2011)

◆事業所の概要を教えてください。

2013年11月に介護保険事業者の指定を受けました。

職員は看護師5人、作業療法士1人、非常勤の所長と事務が各1人の計8人です。職員が不在でも必ず電話が繋がるようにしています。(藤原さん)

◆日ごろの業務内容を教えてください。

健康状態に不安のある方の健康管理・観察、むくみ等の個々の症状の状態管理、困りごとの相談、利用者さんご家族の精神的支援、残薬確認など薬の管理、インフルエンザやノロウイルスなどの予防指導、日常生活動作の維持向上のためのリハビリテーション等です。

利用者さんの日々の状態の変化は医療機関やケアマネジャーさんに報告します。また独居の方の場合はご家族にも状態を報告しています。(金野さん)

◆利用者はどのような方が多いですか？

高齢者、特に夫婦のみの世帯や独居の方です。介護疲れの高齢者の方も多です。認知症の方は比較的少数です。(金野さん)

より多くの方に利用していただきたいので、看護師自身で仮設住宅を訪問し、声かけしたりしています。(藤原さん)

◆訪問看護に入るきっかけを教えてください。

ケアマネジャーさんから筋力低下による転倒などの相談を受けて介入することが多いです。医療機関からの連絡や、病院の連携室からケアマネジャーさんを通じての依頼もあります。(金野さん)

◆仕事をする上で大切にしていること、心がけていることはありますか？

利用者さんとコミュニケーションを取ることで、お話をゆっくりと聞いたり、「何か困っていることはないですか」と声かけをしたり、血圧や脈を取ったりして、安心感を持ってほしいと思っています。特に独居の方は「何かあったら…」という不安感をお持ちなので、思いを聞いて相談に乗ることで不安を解消していただき、一人ひとりと信頼関係を築いていきたいです。(金野さん)

◆多職種の皆さんに一言お願いします！

開設したばかりの事業所なので、まだまだ皆さんに知られていないと思いますが、ケアマネジャーさんを始め多職種の皆さんと顔の見える関係を築き、業務を通じて住民が安心して暮らせる地域づくりに貢献していきたいと思っています。どうぞよろしくをお願いします！(藤原さん・金野さん)



藤原所長（左）、金野看護師



職員の皆さんと。朗らかでアットホームな雰囲気です

編集後記

今号は2015年を迎えて初めての発行となります。本年もさまざまな連携の動きをお知らせしたいと思いますのでよろしくお願い致します。

昨年末にはチームかまいしのホームページとブログのアドレスが変更になりました。こちらもぜひご覧ください！(N)

発行／在宅医療連携拠点チームかまいし

〒026-0025 釜石市大渡町3丁目15番26号

TEL 0193-55-4536 FAX 0193-22-6375

✉ zaitaku@team-kamaishi.jp

ウェブサイト <http://teamkamaishi.ec-net.jp>

ブログ <http://blog.goo.ne.jp/teamkamaishi>

アドレスが
変わりました